



登米地域の稲作通信 第8号追加情報

令和6年9月6日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

「稲作通信第8号」発行時点では、ひとめぼれ（晩期栽培）、金のいぶきほ場の出穂後25日調査が未実施だったため、追加情報として「稲作通信第8号追加情報」を発行します。

1 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m ²)	田植月日(平年差)	出穂期	出穂後25日調査結果						刈取適期予測		
							穂揃期	葉色(GM)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	葉色(GM)	1穂粒数(粒)	㎡粒数(千粒)	8/30までの実測値
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	前年比・差 +5日 平年比・差 +4日	8月6日 +5日 +1日	35.2 1.8 2.8	95.1 117% 113%	20.3 109% 110%	469 106% 107%	35.2 5.4 5.3	83.5 117% 126%	39.2 124% 137%	9月16日	9月16日
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日	8月1日 +1日 -4日	33.6 2.4 1.2	90.4 114% 108%	19.4 107% 105%	464 115% 108%	29.6 0.3 -1.3	77.1 108% 108%	35.8 124% 116%	9月10日	9月9日
3	ひとめぼれ(晩期栽培)	-	米山町	20.8	前年比・差 — 平年比・差 —	8月10日 — —	40.6 — —	86.3 — —	21.2 — —	395 — —	41.1 — —	92.2 — —	36.4 — —	9月22日	9月21日
4	ササニシキ	Cタイプ(復活ササニシキ)	豊里町	14.8	前年比・差 +1日 平年比・差 +1日	8月3日 +3日 +1日	32.4 1.3 0.0	81.3 107% 103%	18.8 104% 103%	361 106% 90%	25.0 -0.4 -4.4	81.8 107% 100%	29.5 114% 92%	9月12日	9月12日
5	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	前年比・差 — 平年比・差 —	8月4日 — —	35.7 — —	84.3 — —	17.8 — —	419 — —	32.0 — —	74.6 — —	31.3 — —	9月19日	9月18日
6	だて正夢	-	迫町	19.3	前年比・差 -7日 平年比・差 -1日	8月4日 -2日 -2日	38.2 4.3 1.9	93.1 106% 102%	20.1 100% 103%	376 96% 92%	37.5 2.2 1.3	84.6 90% 95%	31.8 87% 88%	9月16日	9月15日
7	金のいぶき	-	登米町	16.5	前年比・差 +5日 平年比・差 +2日	8月8日 +6日 +3日	33.5 4.4 3.1	97.5 110% 105%	20.7 104% 106%	498 106% 103%	32.9 2.5 1.7	86.4 108% 103%	43.1 115% 106%	9月25日	9月24日
8	つきあかり	-	豊里町	19.3	前年比・差 — 過去2か年平均比・差 —	7月23日 — —	33.5 — —	76.3 — —	18.6 — —	303 — —	32.5 — —	97.8 — —	29.6 — —	9月2日	9月1日

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※気温の積算値は8月30日、9月3日までは実測値。実測値以降はアメダス(米山)の平年値を用いた。

※適期刈取予測は、出穂後積算平均気温で下記の温度に達した日とした。

ひとめぼれ・ササニシキ：1,000℃、だて正夢：1,040℃、つきあかり：1,050℃、つや姫、金のいぶき：1,100℃

出穂後25日調査時点の生育状況は、管内の生育調査ほの金のいぶきについては、㎡当たり穂数、1穂粒数が平年を上回ったため、㎡当たり粒数が平年を上回りました。晩期栽培のひとめぼれは生育調査ほのひとめぼれと比べ、㎡当たり穂数は少なくなりましたが、1穂粒数が多くなり㎡当たり粒数はほぼ同等となりました。

8月30日までの実測値による刈取適期予測よりも刈取適期予測は早まっています。刈り遅れに注意しましょう。

2 今後の管理

(1) 適期刈取

1) 出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定

刈取時期が遅くなるほど整粒歩合は低下し、その他未熟粒、基白粒が増加します。特に、出穂後積算気温が1,200～1,300℃になると、胴割粒等も発生して整粒歩合はさらに低下します。

今年も昨年と同様、高温の影響により、登熟は平年よりも早まると見込まれます。コンバインや乾燥機の点検などを進め、刈取適期になったら速やかに刈取りができるよう準備しておきましょう。刈遅れによる胴割粒や着色粒などの品質低下を防ぐため、籾の熟色等をよく観察し適期刈取りに努めましょう。

「稲作通信第8号」に掲載した「出穂期からの積算平均気温に基づく刈取適期予測」よりも刈取適期予測は早まっています！刈遅れに注意！！

出穂期からの積算平均気温に基づく刈取適期予測

品種	刈取適期	出穂期					
		7月24日	7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月6日
ひとめぼれ	940～1100℃	8/29～9/3	9/2～9/8	9/4～9/10	9/6～9/13	9/10～9/17	9/13～9/20
ササニシキ	930～1150℃	8/29～9/6	9/1～9/10	9/4～9/13	9/6～9/15	9/10～9/20	9/12～9/22
だて正夢	1020～1060℃	9/1～9/2	9/5～9/6	9/8～9/9	9/10～9/11	9/14～9/15	9/17～9/18
金のいぶき	1050～1150℃	—	9/7～9/10	9/9～9/13	9/12～9/15	9/15～9/20	9/18～9/22
つきあかり	1000～1100℃	8/31～9/3	9/2～9/6	9/7～9/10	9/9～9/13	9/13～9/17	9/16～9/20
つや姫	1000～1200℃	—	9/4～9/13	9/7～9/15	9/9～9/18	9/13～9/22	9/16～9/25

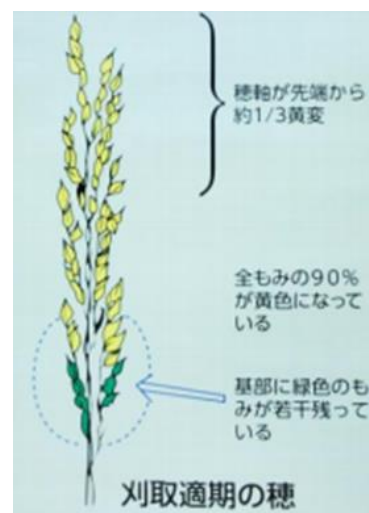
※気温の積算値は9月3日までは実測値。9月4日以降はアメダス（米山）の平年値を用いた。

2) 籾の黄化程度

刈取始期は、籾の黄化程度で判断します。ほ場全体を平均して籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期が刈取始期となります。

稈実籾の平均水分は降雨によりバラツキを生じるものの、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」では、登熟期間全体を通してみれば、平均気温の積算値が約50℃増えるごとに稈実籾の平均水分が1%減少するというデータがあります。今年は、今後も高温が続くと予想されています。籾の状態をよく観察し、刈遅れにならないように注意しましょう。

昨年、金のいぶきのほ場では刈遅れや倒伏していないほ場でも穂発芽が発生し、品質が低下しました。刈取適期を逃さないようにしましょう。



(2) 収穫作業

○コンバイン収穫は、籾水分が25.0%以下になってから刈取作業を行いましょう。

○クサネムやツククサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除くことができないので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

「籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定」については稲作通信第8号を参照してください。

(3) 乾燥・調製

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。今年も出穂後の高温が続いており、特に胴割粒の発生が懸念されることから、二段乾燥に努めましょう。

※二段乾燥とは：籾水分が18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後、仕上げ乾燥を行う。

○出穂後の高温により、白未熟粒の発生による落等が懸念されます。可能であれば色彩選別機を使用しましょう。